ボーリング柱状図

調　査　名	船越六丁目17地区　急傾斜地崩壊対策事業に伴う業務委託
事業・工事名	船越六丁目17地区　急傾斜地崩壊対策事業

ボーリングNo 2

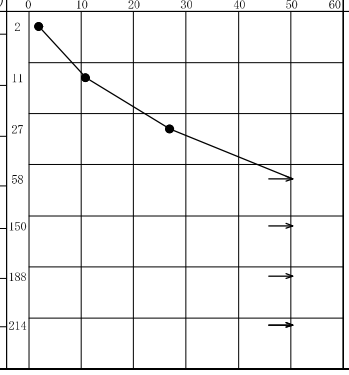
シートNo 1

ボーリング名	BorNo.2	調査位置	広島県広島市安芸区船越六丁目　地内			北緯	34° 22’ 38.43”
発注機関	広島県土木建築局　西部建設事務所			調査期間	令和 4年 8月 31日 ～ 4年 8月 31日	東経	132° 32’ 0.07”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	T.P. 64.51m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0° 32°	使用機種	試錐機	東邦D0-D（2）型	ハンマー落下用具	半自動落下型
総掘進長	6.00m								エンジン	ヤンマーTF120-VE型	ポンプ	東邦BG-3C型

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1	63.36	1.15	1.15		表土・砂質土	暗褐			木根が侵入する、マサ状土砂よりなる。 表層付近は有機質土。	
2	61.51	1.85	3.00		花崗岩風化土	褐			岩級区分のDL～DM級に相当する、強風化花崗岩。 コアは土砂の柱状で採取され、指圧にてマサ状に崩れる。 風化進行により、雲母は黄金色に変色している。 岩構造は明瞭である。	
3 4 5 6	58.51	3.00	6.00		花崗岩・軟岩	褐			岩級区分のDH級に相当する、風化花崗岩。 コアは柱状で採取され、ハンマーの打撃によりマサ状に崩れる。 鉱物間の結束は非常に密な状態にあり、掘削方向に向かって密度を増す。 上層同様に岩構造は明瞭である。	

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
0.15	1／18	1／12		／30	2
0.45 1.15	3	3	5	11／30	11
1.45 2.15	7	9	11	27／30	27
2.45 3.15	18	19	13／6	50／26	58
3.41 4.15	50			50／10	150
4.25 5.15	50／8			50／8	188
5.23 6.10	50／7			50／7	214
6.17					



原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						8/31